

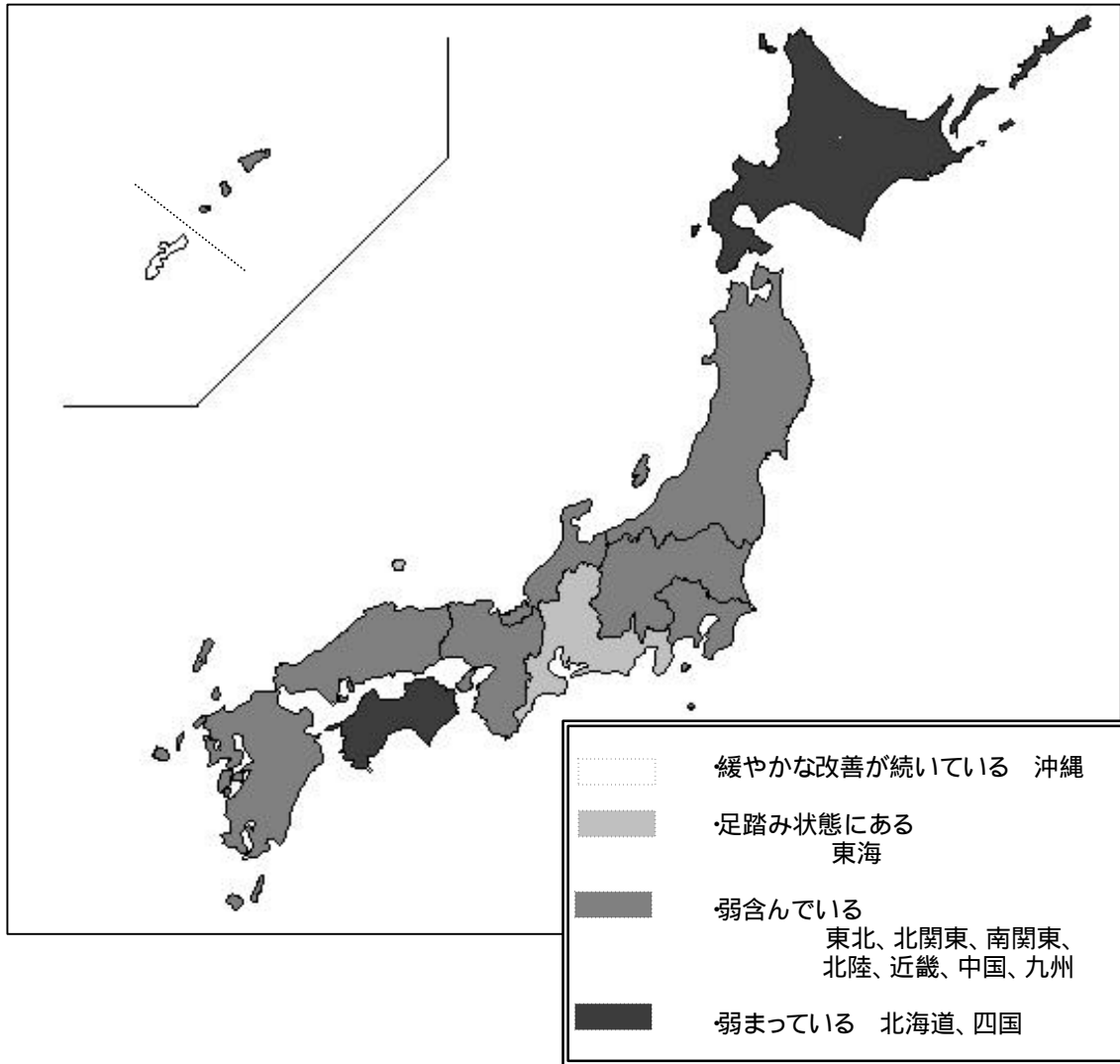
地 域 経 済 動 向

平成 13 年 5 月 24 日

内 閣 府 政 策 統 括 官
(経 済 財 政 - 景 気 判 断 ・ 政 策 分 析 担 当)

1. 地域経済の概況

(1) 各地域の景況感



(2) 前回調査からの比較

総括表現

各地域の表現	北海道	東北	関東 (北関東)(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回復している										
改善が続いている										
緩やかな改善が続いている										
改善のテンポが緩やかに なっている										
足踏み状態にある										
弱含んでいる										
弱まっている										

(備考) は、今回調査の判断。
 は、前回調査の判断。 のない地域は、前回の判断を変更していない地域。

～ 前回調査からの比較～

上方修正・・・なし

下方修正・・・全 11 地域（北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄）

今回調査の特色

緩やかな改善が続いている沖縄、足踏み状態にある東海

沖縄：主力の観光が増加傾向で、住宅建設も増加傾向にあるものの、個人消費はおおむね横ばいの状態にあり、設備投資の先行きについても減少が見込まれている。

東海：鋳工業生産は減少し、個人消費はおおむね横ばいの状態にあり、業況判断が悪化し、雇用情勢もやや厳しい状況となっている。

弱含んでいる東北、北関東、南関東、北陸、近畿、中国、九州

東北：鋳工業生産は減少し、個人消費はやや弱含んでおり、設備投資の先行きについても減少が見込まれており、雇用情勢も厳しい状況となっている。

関東（北関東、南関東）：鋳工業生産は減少傾向にあり、住宅建設は穏やかに減少していることに加え、雇用情勢もやや厳しい状況となっている。

北陸：設備投資の先行きについて増加が見込まれるものの、個人消費はおおむね横ばいの状態にあり、鋳工業生産及び住宅建設が減少している。

近畿：鋳工業生産は減少し、雇用情勢も厳しい状況となっており、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれている。

中国：鋳工業生産は減少し、個人消費は弱含んでおり、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれている。なお、芸予地震により、鋳工業生産は石油、石炭製品が減少し、個人消費では消費マインドの低下を指摘する声が出ているなど、一部に影響がみられた。

九州：鋳工業生産は減少し、設備投資の先行きについても減少が見込まれており、個人消費はおおむね横ばいの状態であり、雇用情勢も厳しい状況となっている。

弱まっている北海道、四国

北海道：鋳工業生産が減少傾向にあり、雇用情勢が厳しい状況となっており、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれている。

四国：鋳工業生産が減少し、個人消費は弱含んでおり、雇用情勢も厳しい状況となっている。

2. 地域経済の動向

(1) 北海道

北海道地域では、景気は弱まっている。これは、鉱工業生産が減少傾向にあり、雇用情勢が厳しい状況となっており、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれているからである。

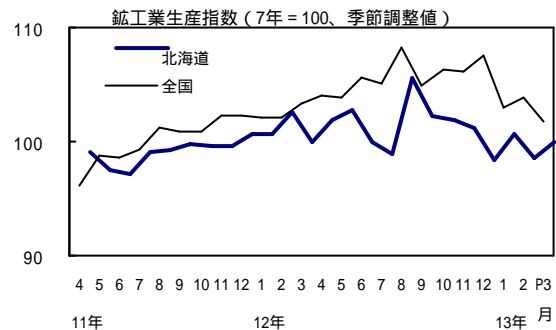
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は減少している。

生乳生産（前年同月比）は2月5.0%減、3月2.3%減となった。水産業（主要10港、前年同月比）はスケソウ、タラガロシア200海里で操業する日本漁船の漁獲割当量削減などから3月は水揚量では48.2%減となり、金額でも51.7%減となった。

(2) 鉱工業生産は減少傾向にある。

食料品・たばこは、ビールの生産増加などからこのところ前年を上回っている。窯業・土石は、公共工事の減少などから低調に推移している。パルプ・紙は、IT関連向けのマニュアルの需要が伸び悩んでいることなどから弱含んでいる。電気機械は、IT関連の需要の鈍化から減少している。輸送機械は、新型車投入効果などから堅調に推移している。



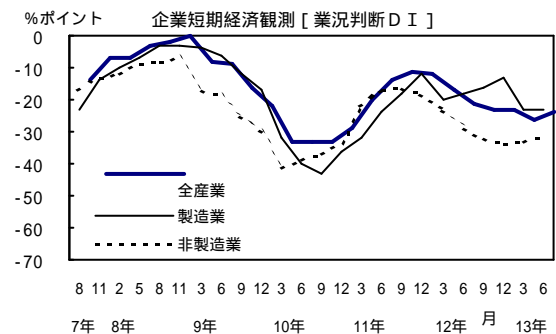
(備考) Pは速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連 (現状判断理由)]

設備資金の申込が少ない(金融業) 設備投資意欲が低迷している(その他サービス業 [建設機械リース]) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、荷主からの値引き要求が強まっている(輸送業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。

(4) 観光は持ち直しの動きに一服感がみられる。

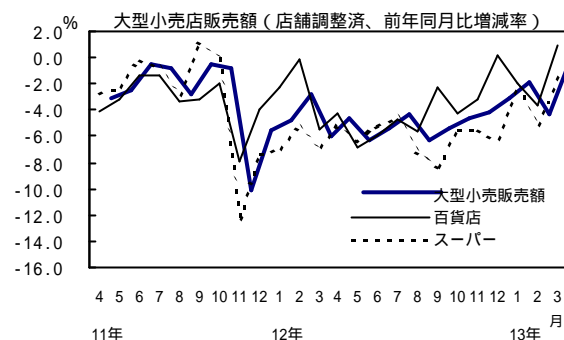
来道客数(前年同月比)は、さっぽろ雪まつりが盛況であったものの、2月6.0%減、3月3.9%減となり持ち直しの動きに一服感がみられる。ただし、台湾を中心とした外国人観光客は増加しており、また、ゴールデンウィークの予約状況も有珠山噴火の影響が薄らいできたことなどから前年を上回っている。

2. 需要の動向

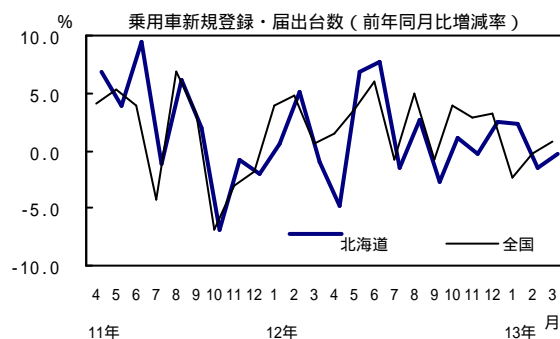
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

1 大型小売店販売額

百貨店は、1月は12月の閉店セールスの反動、2月は低温の影響から春物衣料が伸び悩んだため、前年を下回ったものの、3月は後半から天候に恵まれ、春物衣料が好調に推移したことから、3か月振りに前年を上回った。
スーパーは、3月はフレッシュアーズ向けで身の回り品が好調に推移したものの、主力の飲食料品は依然として市況安などから不振であり、18か月連続で前年を下回った。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I (現状判断理由)]

来客数が変わらない(スーパー、コンビニ、自動車備品販売店)、客単価が低水準のままである(百貨店、スーパー、コンビニ等)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している(スーパー、衣料品専門店、一般レストラン等)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	45.5	48.5	42.9	39.4	41.5	42.3
先行き判断	46.7	43.6	47.3	46.3	45.9	49.1

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

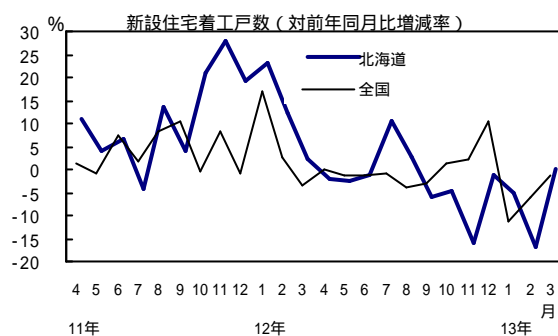
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)](前年度比増減率、単位:%)

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	16.5(2.1)	19.7
製造業	32.0(3.1)	22.5
非製造業	9.6(1.5)	18.2

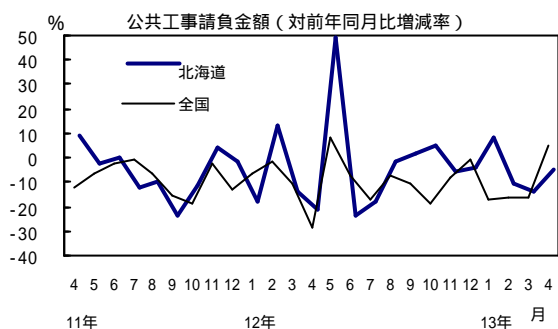
(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(3) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回っていることなどから、全体で見ると減少している。



(4) 公共投資は前年を下回っている。

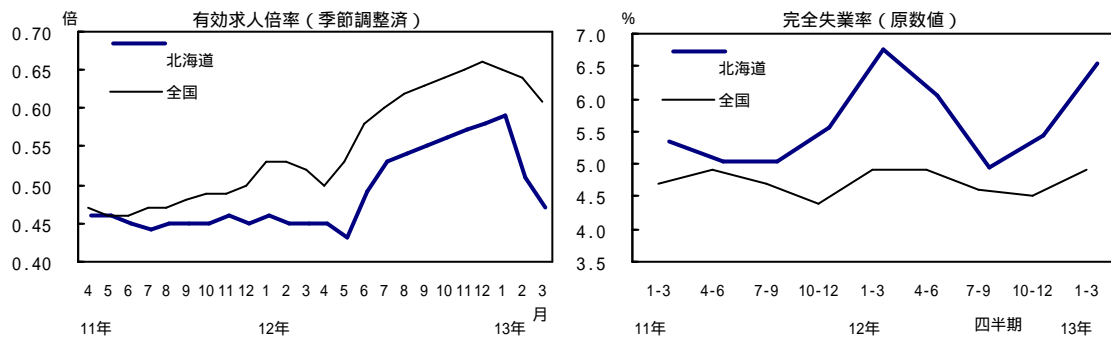


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を下回っているものの、依然として高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

パートの求人が多い (職業安定所)、雇用のミスマッチ状況がみられる (求人情報誌製作会社) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、在職中の求職者が増加している (職業安定所) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。 (前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	21.6	31.9	12.6	6.2	3.8	28.9	13.8
負債総額	23.6	55.9	22.7	54.2	263.8	27.8	58.1

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	48.3	48.5	41.9	39.4	41.7	42.9
先行き判断	46.5	42.9	47.1	47.2	46.3	49.4

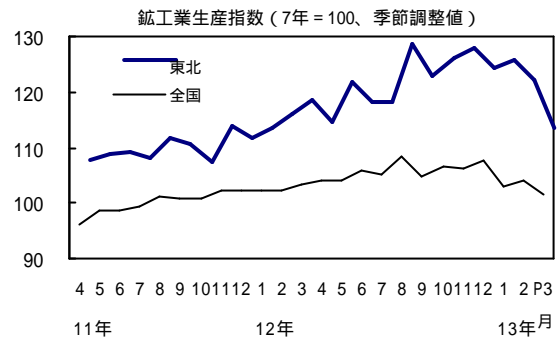
(2) 東北

東北地域では、景気は弱含んでいる。これは、鉱工業生産は減少し、個人消費はやや弱含んでおり、設備投資の先行きについても減少が見込まれており、また、雇用情勢も厳しい状況となっているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

全体の生産水準は、3月は前月比で大幅に減少し、前年同月比でも25か月ぶりに減少している。パソコンや携帯電話等は、生産水準は依然として高いもののひところより下げており、電子部品は、輸出向けの減少に加え国内需要の減少が重なっている。ファインセラミックスも、輸出減少の影響をもろに受け生産調整局面を迎えるなど、全体的に今後も厳しい状況が続く。



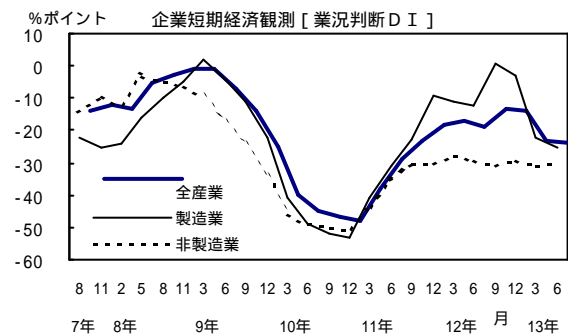
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連(現状判断理由)]

物流は一進一退で変化がない(輸送業)、受注が減少している(その他企業[管理業])などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、市場価格が低迷している(電気機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。



(備考) 電力を除く。「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。

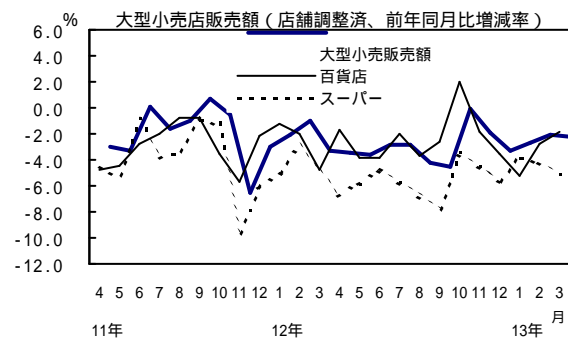
2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

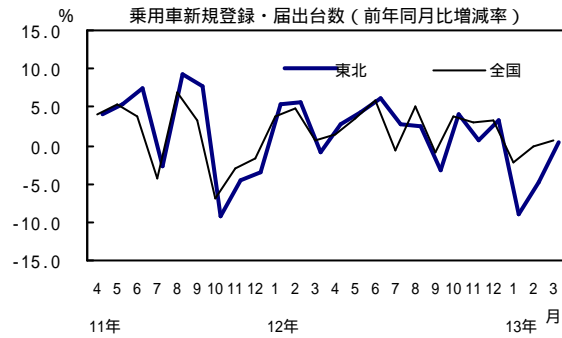
1 大型小売店販売額

百貨店は、テナント導入による紳士服が引き続き好調であり、婦人服は高級ブランド品にも動きがみられるが、カジュアル衣料等の動きが鈍く、全体では前年を下回っている。

スーパーは、野菜を中心に食料品が全体的に好調であり、また、家電リサイクル法施行前の需要により家電も好調である。全店ベースでみると、新規大型店の出店もあり四半期では2期連続で前年を上回っている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

客単価の低下が続いている（スーパー、高級レストラン、観光名所等）売上が伸びない（スーパー、衣料品専門店、観光型ホテル等）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している（商店街、一般小売店〔医療品〕都市型ホテル等）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	40.6	41.0	35.0	34.2	39.9	43.9
先行き判断	45.6	43.4	45.3	45.9	42.4	48.3

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

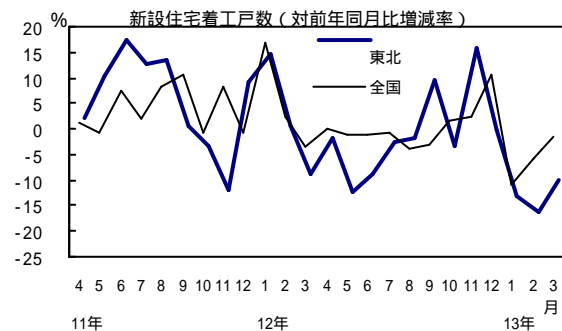
企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]
電気機械で前年度の大幅な能力増強投資の反動があり、小売では新規出店を抑制する計画にあることなどから、全産業で前年度を下回っている。

（前年度比増減率、単位：％）

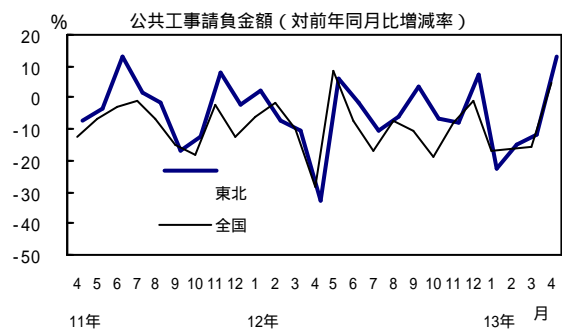
	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	7.4（ 1.5）	19.8
製造業	21.1（ 1.8）	20.1
非製造業	9.5（ 1.0）	19.4

（備考）（ ）は前回（12月）調査比修正率。

（3）住宅建設は減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

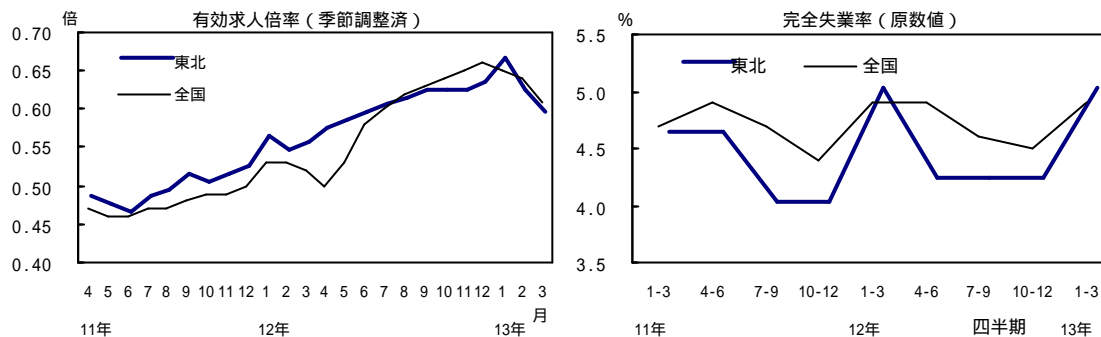


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は1月をピークに低下に転じている。完全失業率は、前年同期と同じであり依然としてやや高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

新規雇用の勢いが衰えている (人材派遣会社、職業安定所) 受注が減少している (人材派遣会社、アウトソーシング企業) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、活況が続いている (人材派遣会社) などの理由から「変わらない」とする回答や、求人掲載企業が減少している (求人情報誌製作会社) などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は負債総額が増加している。

(前年同期 (月) 比増減率、単位: %)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	16.7	33.7	11.4	0.8	22.0	26.4	0.8
負債総額	8.3	49.9	0.1	118.4	41.8	17.8	43.2

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	43.3	41.8	36.9	34.8	38.0	39.9
先行き判断	46.6	42.4	44.9	44.0	41.1	46.9

(3) 関東

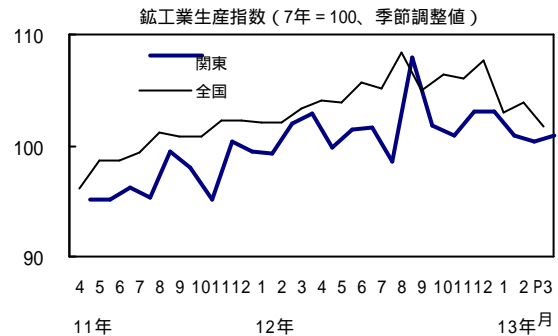
関東地域では、景気は弱含んでいる。これは、鉱工業生産は減少傾向にあり、住宅建設は緩やかに減少していることに加え、雇用情勢もやや厳しい状況となっているからである。

北関東と南関東については、ほぼ同様の動きであり、ともに景気は弱含んでいる。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少傾向にある。

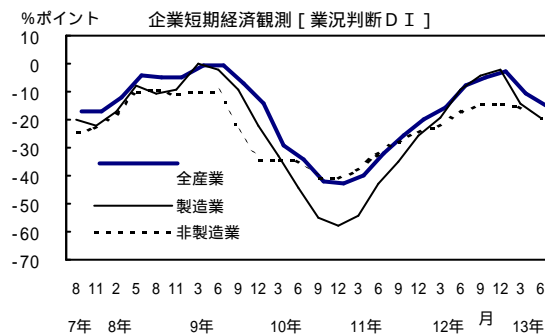
電気機械は、アメリカ経済の減速を受けてパソコン、デジタル伝送装置等を中心に、生産が減少している。金属製品は飲料用アルミ缶、石油ストーブ等を中心にそれぞれ生産が減少している。輸送機械は、新車投入効果により2月に生産が増加したものの長続きせず、総体としては生産が減少している。



(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査 [業況判断DI]



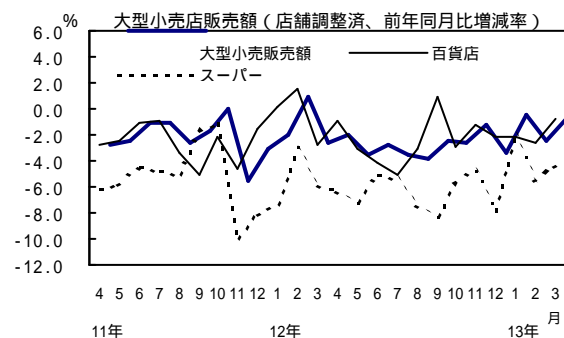
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。

2. 需要の動向

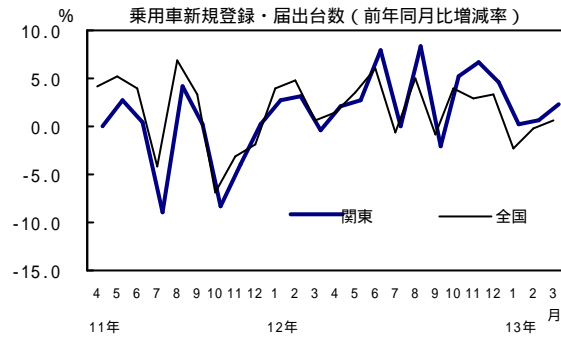
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 大型小売店販売額

百貨店は、3月後半の温暖な気候等により、身の回り品、飲食料品等が好調であった。しかし、衣料品の低価格志向の徹底といった状況の中、6か月連続で前年同月の販売額を下回った。スーパーは、家電リサイクル法施行前の駆け込み需要等により、家電器具等が好調であった。しかし、主力の食品が牛肉等を中心に不振であり、27か月連続前年同月の販売額を下回った。大型小売店合計では、34か月連続で前年同月の販売額を下回った。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	41.5	43.8	44.2	41.5	43.4	42.2
先行き判断	46.9	42.7	49.0	45.3	43.9	50.0

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みとほぼ同水準となっている。

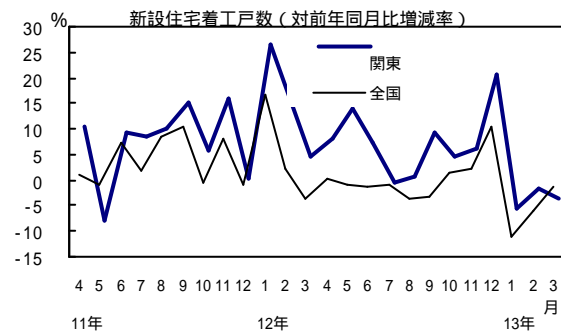
企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	7.1(2.6)	0.8
製造業	13.3(2.1)	0.5
非製造業	9.4(2.7)	0.9

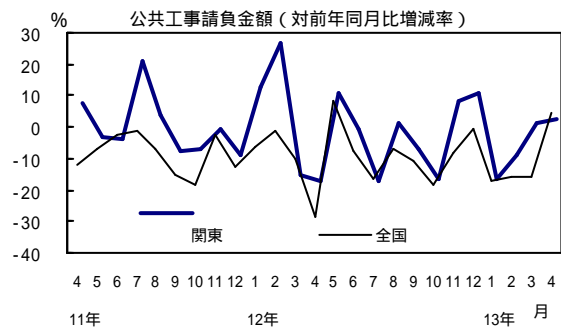
（備考）（ ）は前回（12月）調査比修正率。

（3）住宅建設は緩やかに減少している。

持家、貸家及び分譲の全てにおいて緩やかに減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

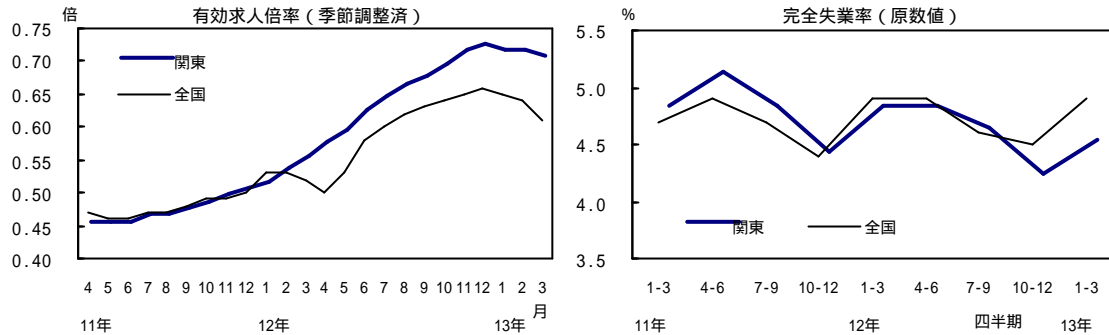


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はやや厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、わずかに低下に転じている。完全失業率は、前年同期をわずかに下回っているものの依然高い水準にある。



(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	13.4	15.2	12.4	2.3	20.1	7.0	7.2
負債総額	7.7	162.5	1202.0	51.2	64.3	759.1	21.4

景気ウォッチャー調査 [合計D I]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	44.5	44.7	43.8	40.7	41.0	40.1
先行き判断	47.8	44.0	48.5	44.4	42.7	47.1

北 関 東

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少傾向にある。

電気機械や金属製品は低調に推移しており、輸送機械も2月は生産が増加したが総体としては減少している。

(2) 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連 (現状判断理由)]

売上が減少している (プラスチック製造業、輸送用機械器具製造業)、地元企業のチラシ広告量が減少している (新聞販売店 [広告]) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、手ごたえはあるが受注に結びつかない (経営コンサルタント) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

2. 需要の動向

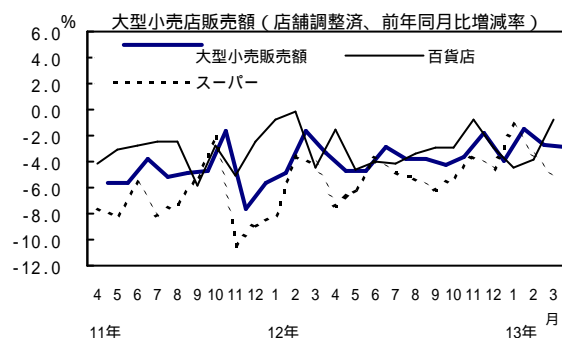
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 大型小売店販売額

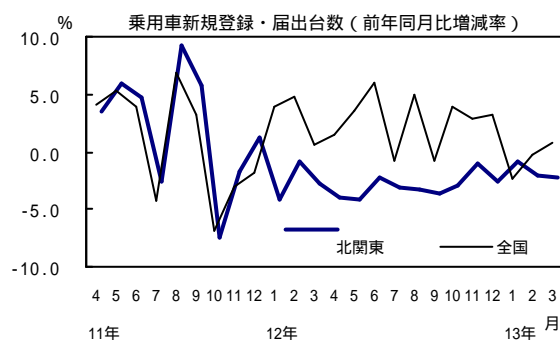
百貨店は、3月後半の温暖な気候等により、身の回り品、飲食品等が好調であったが、衣料品の低価格志向の徹底により、34か月連続で前年同月の販売額を下回った。

スーパーは、家電リサイクル法施行前の駆け込み需要や、店舗新設効果から好調を保った地域があった。しかし衣料品、食品の不振で、全体では前年同月の販売額を下回っている。

大型小売店全体では、35か月連続で前年同月の販売額を下回った。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI (現状判断理由)]

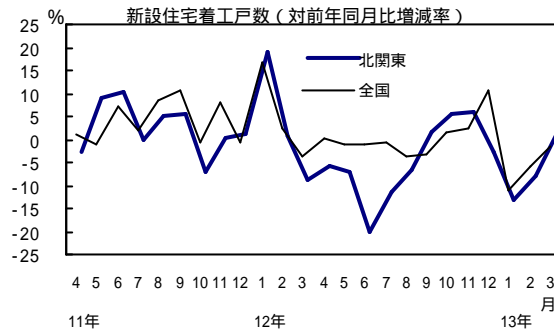
客の態度が慎重である (商店街、スーパー、衣料品専門店)、売上が変わらない (百貨店、乗用車販売店) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している (コンビニ、ゴルフ練習所、設計事務所) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	43.6	42.5	43.1	37.3	42.9	44.6
先行き判断	46.8	43.4	51.0	46.1	46.9	52.2

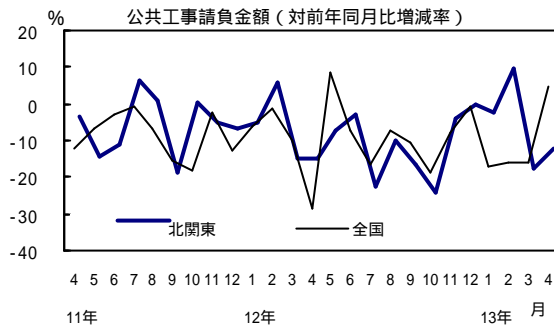
(備考) 巻末主要指標 (9) の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家は前年を上回っているが、持家、分譲は下回っており、全体では緩やかに減少している。



(3) 公共投資は前年を下回っている。

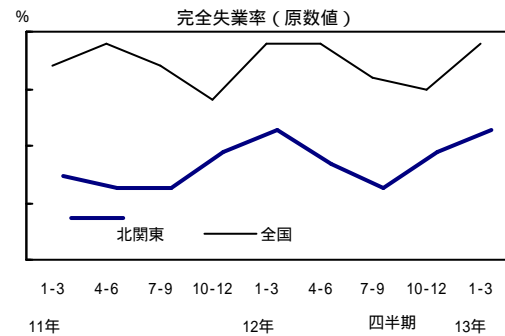
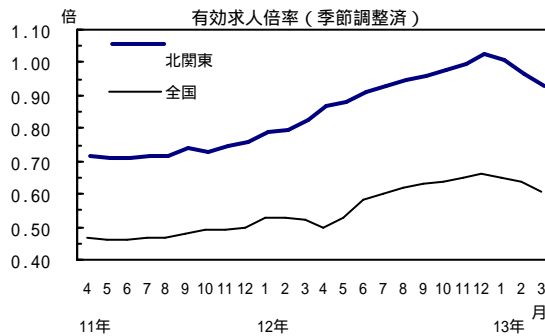


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下に転じている。完全失業率は前年同期と同じで依然高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

人材派遣に対する需要は依然手堅い(人材派遣会社)、予定外退社の補充程度の求人がある(学校[短期大学])などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、採用意欲が減退している(職業安定所)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は倒産件数が減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	24.6	26.8	13.5	3.6	5.6	10.0	13.2
負債総額	2.5	149.7	149.8	46.0	49.0	29.9	14.4

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	47.0	43.3	43.2	39.7	40.4	42.3
先行き判断	47.0	43.0	50.3	46.2	44.3	48.8

南 関 東

1. 生産及び企業動向

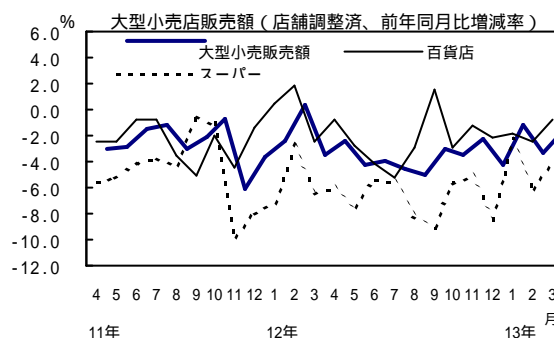
- (1) 鉱工業生産は減少傾向にある。
電気機械や金属製品は低調に推移しており、輸送機械も2月は生産が増加したが総体としては減少している。
- (2) 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連 (現状判断理由)]
受注が低迷している (出版・印刷・同関連産業、電気機械器具製造業、通信業) 価格競争が激しくなっている (その他サービス業 [廃棄物処理]) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、売上が低下している (広告代理店) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

2. 需要の動向

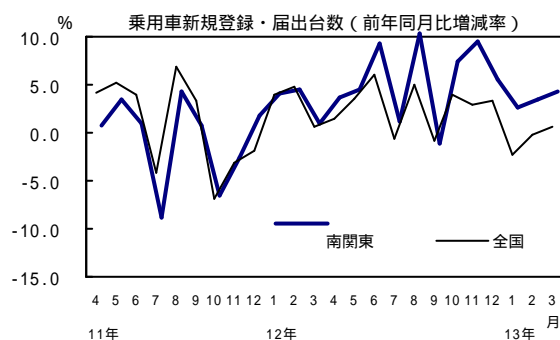
- (1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 大型小売店販売額

百貨店は、3月後半の温暖な気候等により、身の回り品、飲食料品等が好調であったが、衣料品の低価格志向の強まりにより、6か月連続で前年同月の販売額を下回った。
スーパーは、家電リサイクル法施行前の駆け込み需要等により、家電器具等が好調であったが、牛肉等を中心とした食品の不振で、前年同月の販売額を下回った。
大型小売店全体では、34か月連続で前年同月の販売額を下回った。



2 乗用車新規登録・届出台数



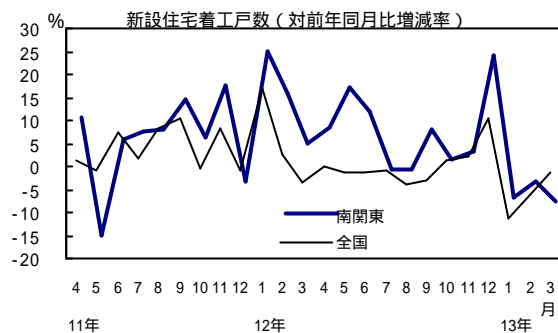
3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連 D I (現状判断理由)]

客単価が低下している (百貨店、スーパー、コンビニ等) 食料品は好調であるが、ファッション関連は不調である (百貨店、スーパー) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している (百貨店、衣料品専門店、家電量販店) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

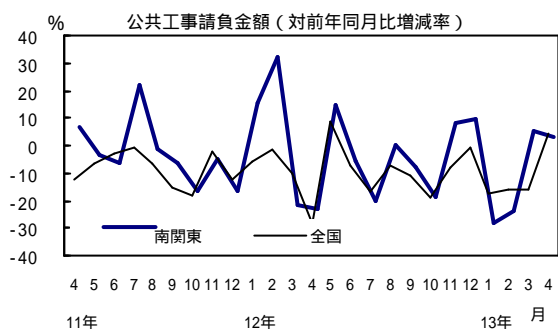
	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	40.3	44.4	44.8	43.4	43.6	41.2
先行き判断	46.9	42.4	48.1	45.0	42.3	49.0

(備考) 巻末主要指標 (9) の備考を参照のこと。

- (2) 住宅建設は緩やかに減少している。
持家、貸家及び分譲の全てにおいて緩やかに減少している。



- (3) 公共投資は前年を下回っている。

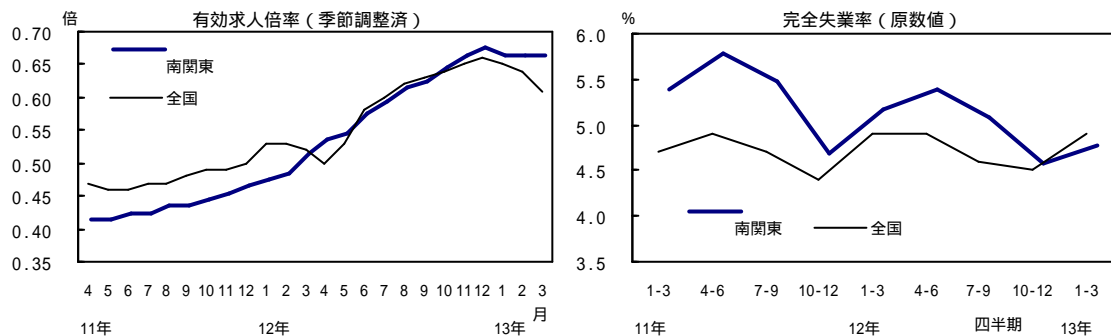


3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢はやや厳しい状況である。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はほぼ横ばいである。完全失業率は前年同期を下回っているものの依然高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

求人数は増加しているが、臨時職員等の増加で、就職件数は減少している(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、新規求人数の伸び率が鈍化している(職業安定所)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答も多くみられた。

- (2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。(前年同期(月)比増減率 単位: %)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	11.4	13.2	12.2	3.5	23.1	6.4	12.6
負債総額	7.9	163.1	1295.4	51.6	64.9	989.6	24.1

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	43.3	45.3	44.1	41.2	41.3	39.1
先行き判断	48.2	44.5	47.5	43.6	42.0	46.3

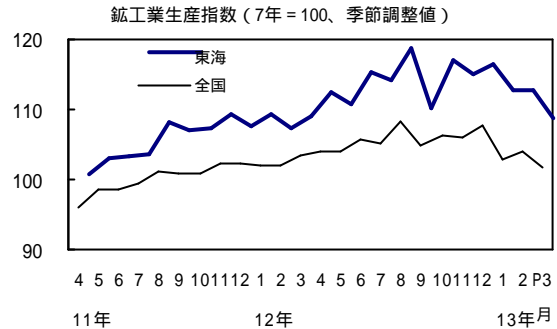
(4) 東海

東海地域では、景気は足踏み状態である。これは、鉱工業生産が減少し、個人消費はおおむね横ばいの状態にあり、業況判断が悪化し、雇用情勢がやや厳しい状況となっているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

自動車は国内販売の一部及び欧州向け輸出に弱い動きがみられることから減少している。電気機械はパソコン等の米国向け輸出が減少し、重電機の自動車向けが弱含みとなっていることなどから減少傾向にある。一般機械は金属工作機械が緩やかな増加傾向にあるものの、土木建設機械が不調、繊維機械がアジア向け輸出の伸びの鈍化により足踏み状態にあることから、おおむね横ばいで推移している。



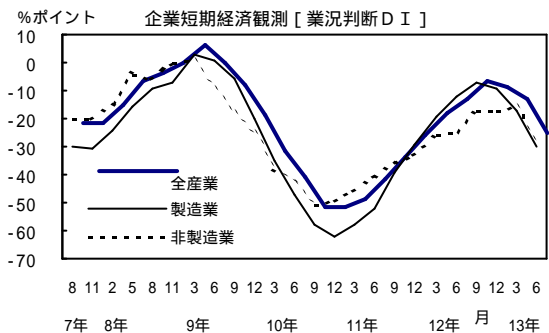
(備考) Pは遅報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

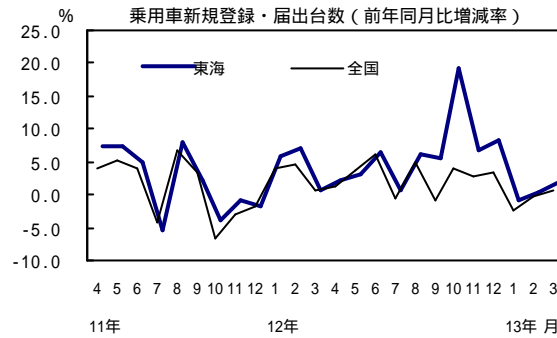
1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連(現状判断理由)]

仕事量が減少している(建設業、新聞販売店[広告]、輸送業)、物件ごとの利益が減少している(電気機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、平均単価が変わっていない(輸送業)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

客単価が低下している（百貨店、スーパー、衣料品専門店）売上が変わらない（コンビニ、衣料品専門店、高級レストラン）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している（商店街、高級レストラン）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	45.3	43.8	42.0	44.7	44.5	45.9
先行き判断	48.6	43.1	48.1	49.8	45.3	49.8

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

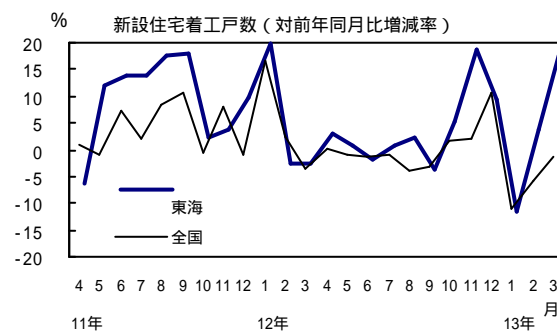
（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]（前年度比増減率、単位：％）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	6.3	6.4
製造業	3.5	0.4
非製造業	8.3	11.2

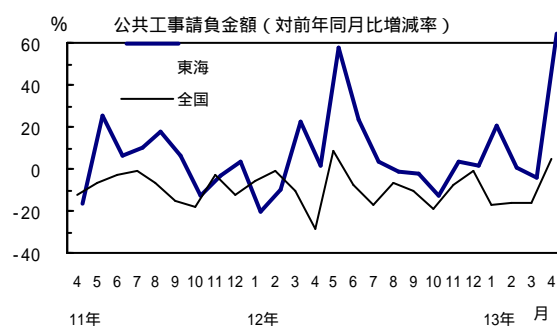
（3）住宅建設は緩やかに減少している。

緩やかに減少しているものの、貸家、分譲の増加により前年を上回る動きもみられる。



（4）公共投資は前年を下回っている。

中部国際空港関連などの発注から前年を上回る動きもみられる。

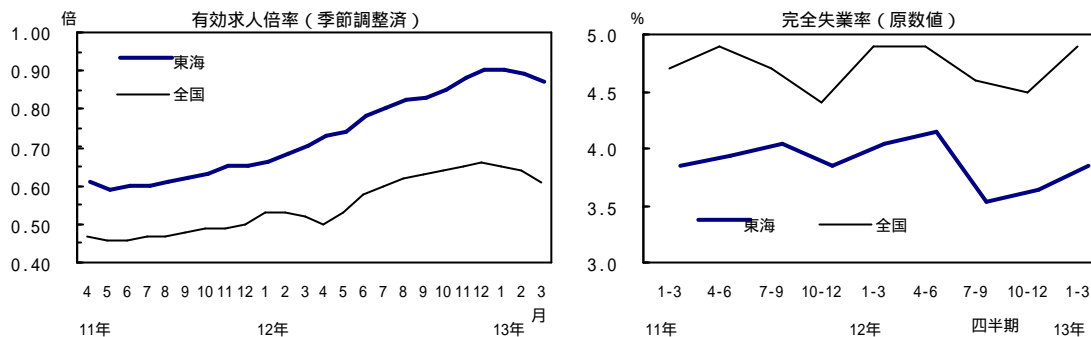


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はやや厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は求人数がこのところ減少しているため、改善の動きに足踏みがみられる。完全失業率は、前年同期を下回っているが、依然としてやや高い水準となっている。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

求人数に大きな変動はない(求人情報誌製作会社) 有効求人倍率が横ばい状態である(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、アウトソーシングを活用する動きが目立ってきている(人材派遣会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	16.4	14.6	1.9	8.3	12.1	14.3	0.6
負債総額	13.7	49.2	134.2	14.3	9.2	32.4	65.6

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	47.7	43.9	43.4	44.0	43.6	43.5
先行き判断	49.9	43.7	46.6	47.3	44.7	49.5

(5) 北 陸

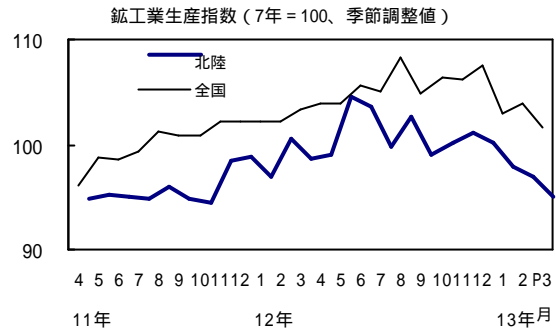
北陸地域では、景気は弱含んでいる。これは、設備投資の先行きについて増加が見込まれるものの、個人消費がおおむね横ばいの状態にあり、鉱工業生産及び住宅建設が減少しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

電気機械は携帯電話部品が国内向け、欧州、東アジア向けともに在庫調整が強まっているため生産が減少している。一般機械は建設機械が低調となっている。また、工作機械等では受注の増勢の鈍化が一部にみられるものの、高水準の受注残から高操業が続いている。

繊維は、輸出が減少傾向にあり、衣料が輸入品と競合していることから低水準な生産となっている。金属製品はアルミ建材がビル用で動きがみられるが、住宅用で生産の抑制基調が続いているため、このところ水準が低下している。



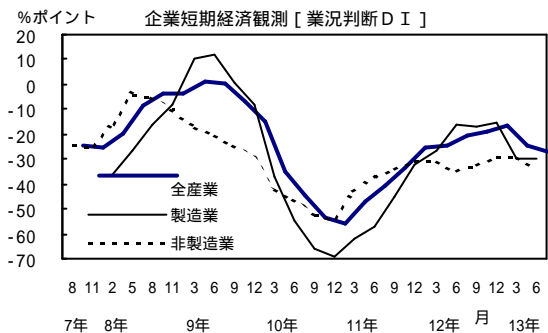
(備考)PIは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連(現状判断理由)]

受注量が減少している(食品製造業、輸送業、不動産業等)受注単価が低下している(建設業、輸送業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、出荷量や受注件数などに変化がない(プラスチック製品製造業)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。



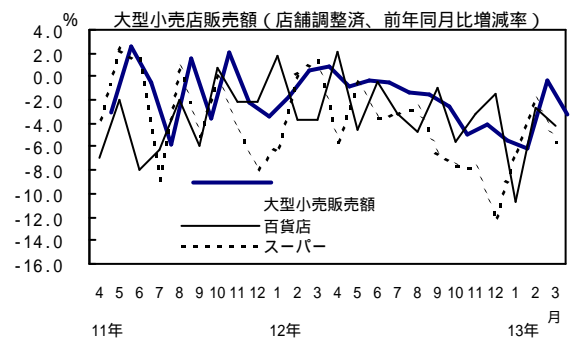
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。

2. 需要の動向

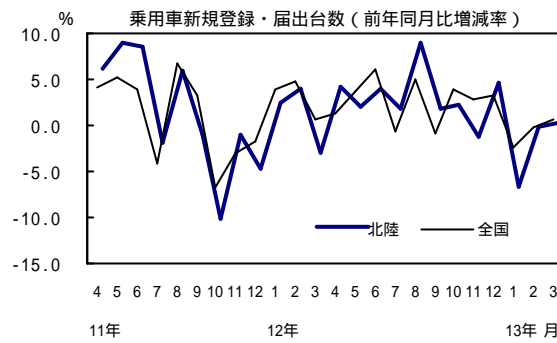
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

1 大型小売店販売額

百貨店は、低価格傾向による衣料品の不振は続いているものの、直近では客数は減少しているものの、衣料品で客単価の上昇がみられる。スーパーは、衣料品等の不振による客単価の低下が直近も含め続いているものの、新規出店効果から、店舗調整前は、1月9.8%増、2月14.6%増、3月12.4%増となっている。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

来客数が増加しない（乗用車販売店、高級レストラン、スナック等）単価が低下している（都市型ホテル、住宅販売会社）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している（百貨店、衣料品専門店、乗用車販売店等）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	41.7	46.3	44.0	38.3	37.5	38.3
先行き判断	43.1	44.9	50.0	42.4	37.9	47.3

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを上回っている。

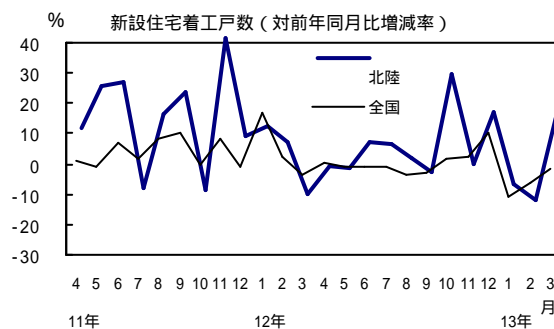
企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]（前年度比増減率、単位：%）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	14.3	2.8
製造業	20.0	9.9
非製造業	2.8	23.2

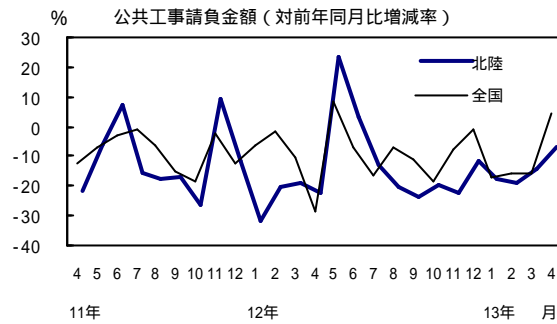
（備考）石炭製品、電気・ガスを除く。

（3）住宅建設は減少している。

貸家等の増加により、前年を上回る動きもみられるが、基調としては減少している。



(4) 公共投資は前年を下回っている。

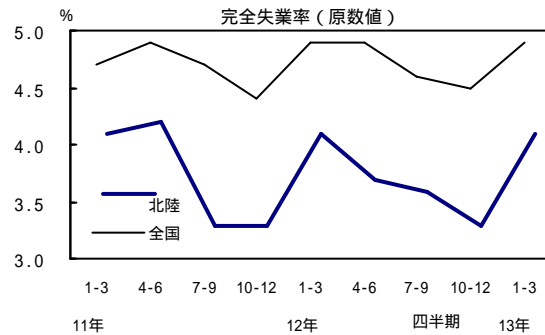
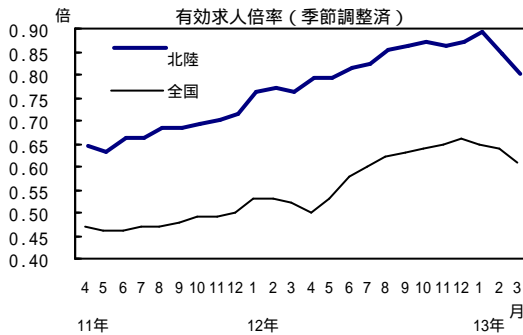


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は求人が弱含んでいることから低下している。完全失業率は、前年同期と同水準となっている。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

求職者が増加している (職業安定所、民間職業紹介機関) 広告が減少している (新聞社 [求人広告]) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、求人は増加しているが、求職者が減少していない (職業安定所) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	34.1	42.3	42.3	9.7	38.5	2.7	22.9
負債総額	7.5	62.7	105.0	7.7	48.9	34.9	29.6

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	44.2	45.9	41.8	36.8	35.3	36.8
先行き判断	44.4	45.4	46.7	39.7	36.3	44.2

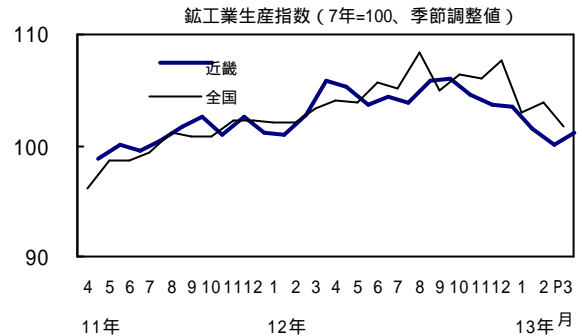
(6) 近畿

近畿地域では、景気は弱含んでいる。これは、鉱工業生産が減少し、雇用情勢も厳しい状況となっており、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

生産は、前月比で3月は増加したものの、昨年10月以降5か月続けて減少しており、基調としては減少している。業種別にみると、電気機械では、好調に推移していた通信・電子部品等で受注の減少から生産水準は低下傾向にある。窯業・土石でもIT関連のファインセラミックスが生産水準を下げている。一般機械のうち、半導体製造装置が設備投資見直しの動きを受け、生産は抑制気味である。また、繊維等の地場産業は需要の低迷や輸入品との競合から不振となっている。



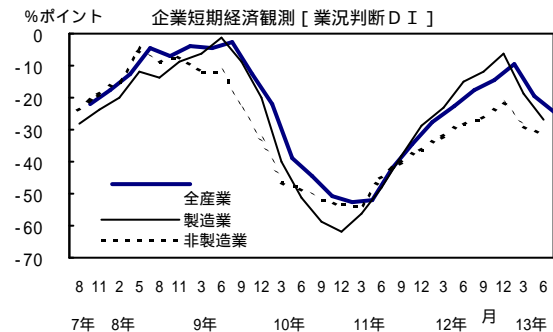
(備考) Pは推定値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連(現状判断理由)]

売上が増加しない(食料品製造業、経営コンサルタント)、価格の低迷が続いている(金属製品製造業、金融業、その他非製造業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、販売量、受注量が減少している(繊維工業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測

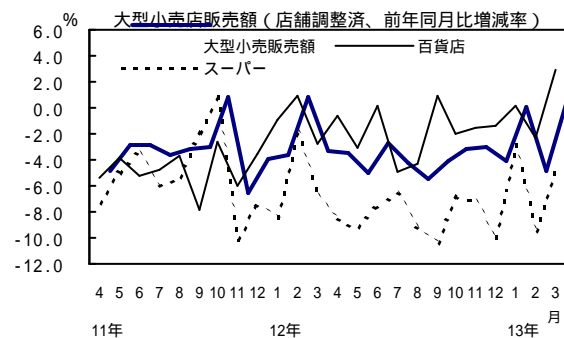
2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

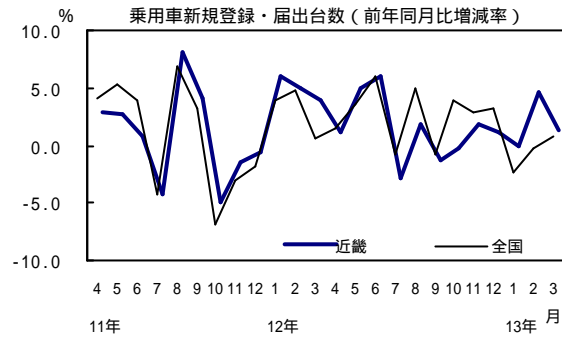
1 大型小売店販売額

百貨店は、一部店舗の改装等により3月は高い伸びを示した。商品別にみると、紳士衣料品は依然として不調であったが、スプリングコート等の婦人衣料やハンドバッグ等の身の回り品が増加に寄与した。

スーパーは、前年水準を下回る動きが続いている。商品別にみると、家電リサイクル法施行前の駆け込み需要から家電製品が増加したものの、主力の飲食料品、衣料品が依然として不振であった。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

低価格志向が強い（一般小売店〔野菜〕、一般小売店〔衣服〕、旅行代理店等）、来客数が増加しない（一般小売店〔精肉〕、家電量販店、観光名所）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が下落している（スーパー、コンビニ、競輪場）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	42.1	43.6	41.5	38.1	42.7	45.2
先行き判断	47.4	45.8	47.6	47.8	46.7	52.3

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は非製造業を中心に前年度実績見込みを下回っている。

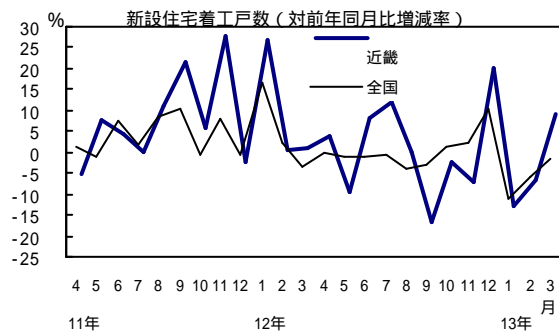
企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]（前年度比増減率、単位：%）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	8.6(0.3)	6.3
製造業	20.1(0.2)	0.6
非製造業	0.9(0.4)	12.0

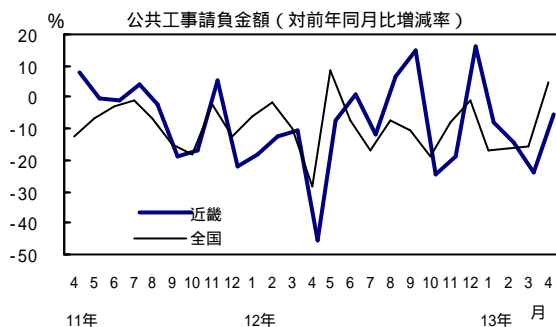
（備考）（ ）は前回（12月）調査比修正率。

（3）住宅建設は減少している。

3月は分譲等で増加したことから前年を上回ったが、均してみると減少している。



(4) 公共投資は前年を下回っている。

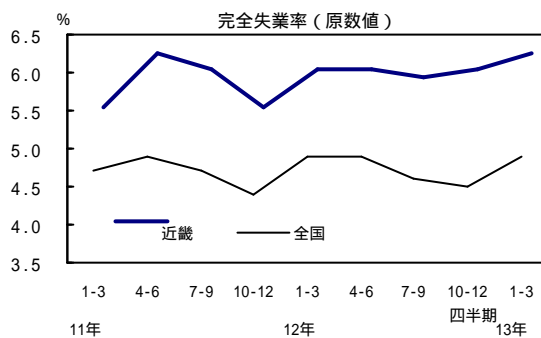
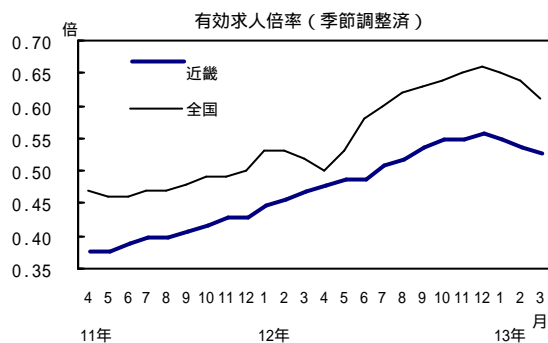


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、求人数が減少し低下している。完全失業率は、前年同期を上回り依然として高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

新規求職者が著しく増加している(職業安定所)、採用を停止する企業が出始めている(民間職業紹介機関)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、新規の需要が頭打ちになっている(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。(前年同期(月)比増減率 単位:%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	27.6	24.1	14.7	5.1	13.2	7.1	10.7
負債総額	75.4	134.3	38.7	209.8	120.4	245.2	30.3

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	46.1	45.6	42.8	38.2	40.4	40.6
先行き判断	47.6	45.5	47.1	46.4	45.4	48.8

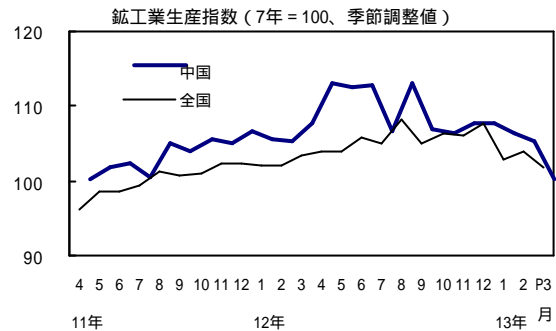
(7) 中国

中国地域では、景気は弱含んでいる。これは、鉱工業生産が減少し、個人消費が弱含んでおり、また、業況判断が悪化し、設備投資の先行きについても減少が見込まれているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

電気機械は、アメリカ経済の減速に伴う輸出の減少などにより、IT関連品目の生産が減少している。自動車は、新型車投入効果で動きがみられるものの、欧州向け輸出が減少し、国内販売も不振が続いていることなどから減少傾向にある。鉄鋼、化学は、アジア向け輸出の減少などから弱含んでいる。一般機械は、引き続き低水準な生産で推移している。芸予地震による操業停止などの影響から石油・石炭製品が3月は前月比12.4%となった。



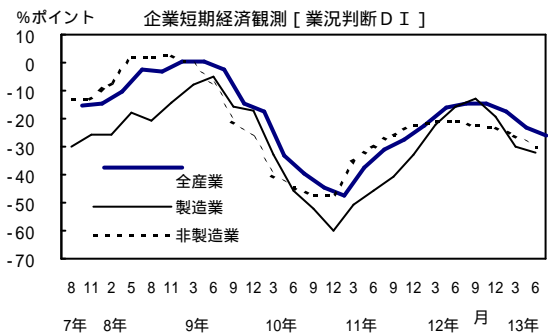
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連(現状判断理由)]

販売が低迷したままである(非鉄金属製造業)、小口の依頼に変化がない(輸送業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、受注量が減少している(鉄鋼業、建設業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測

2. 需要の動向

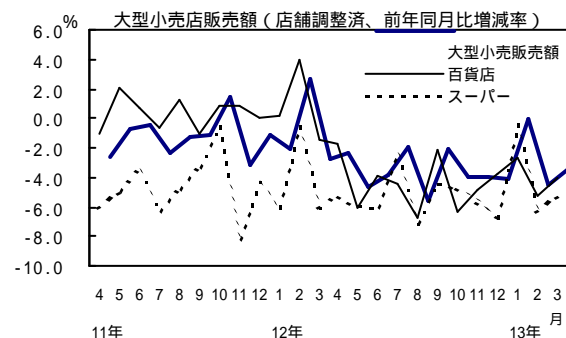
(1) 個人消費は弱含んでいる。

1 大型小売店販売額

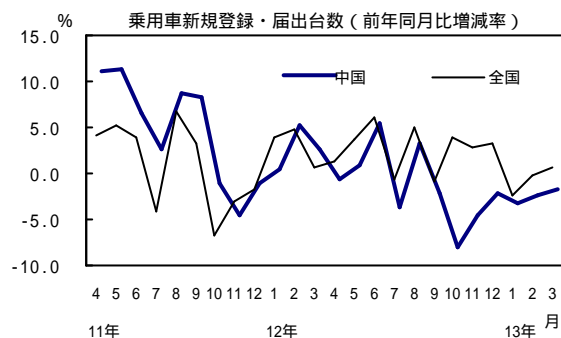
百貨店は、1月は例年に比べて気温が低かったにもかかわらず、冬物セールが伸び悩み、2月から3月前半にかけても気温が低めに推移したことから春物衣料の動きが鈍く、13か月連続で前年を下回っている。

スーパーは、3月に家電リサイクル法施行前の駆け込み需要があったものの、主力の飲食料目が依然として不振であることから、前年を下回っている。

芸予地震による消費マインドの低下を指摘する声もある。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

低価格志向である（百貨店、コンビニ、衣料品専門店等）、売上が横ばいである（観光型ホテル、競艇場）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している（乗用車販売店、自動車備品販売店、スナック）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	44.6	42.1	43.2	46.1	44.6	47.9
先行き判断	46.4	46.4	50.0	48.6	43.2	51.4

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

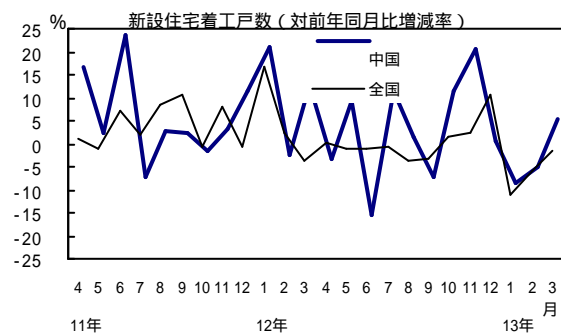
企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]（前年度比増減率、単位：%）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	4.0	12.6
製造業	15.1	9.5
非製造業	4.4	15.5

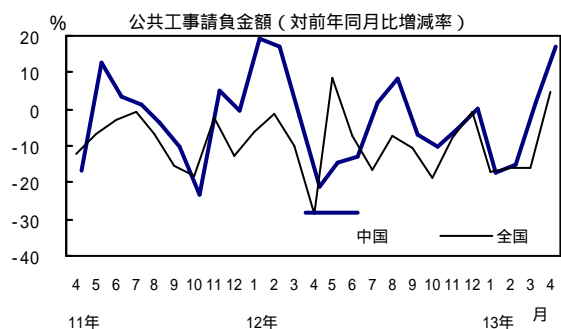
（備考）ソフトウェアを含む設備投資。

（3）住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回っているものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体で見ると減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

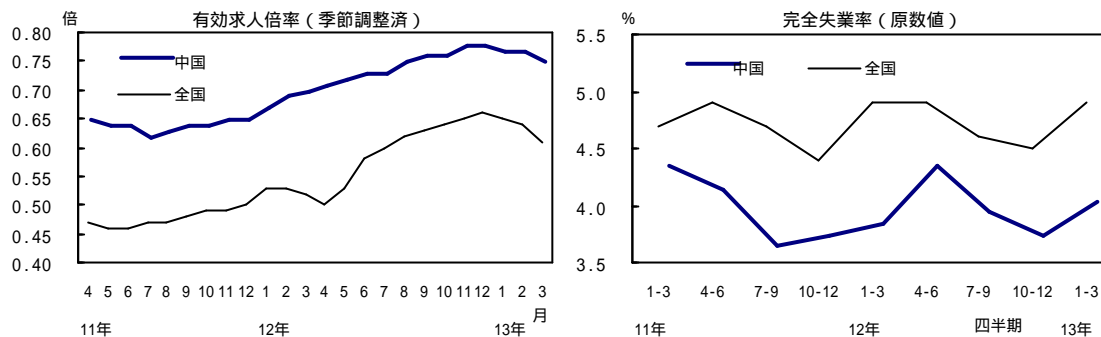


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに低下している。完全失業率は、前年同期を上回っており依然としてやや高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

欠員補充をすぐに行わない (求人情報誌製作会社)、製造業全般で有効求人倍率の停滞感が強まっている (職業安定所) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、求人に変化がみられない (学校 [大学]) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位: %)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	34.8	25.8	13.0	4.2	27.6	7.1	9.3
負債総額	34.9	555.6	76.5	16.5	47.2	6.5	3.8

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	46.3	42.5	42.5	43.3	40.5	44.5
先行き判断	46.5	45.5	48.3	46.3	42.3	50.0

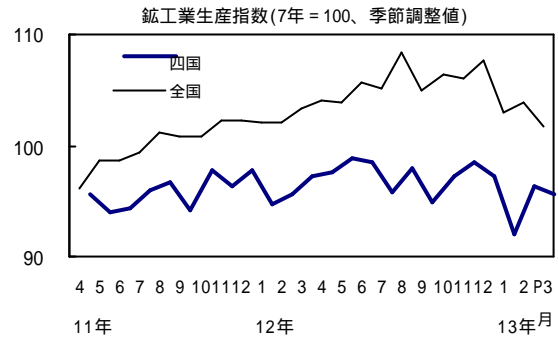
(8) 四 国

四国地域では、景気は弱まっている。これは、鉱工業生産が減少し、個人消費は弱含んでおり、雇用情勢も厳しい状況が続いているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

電気機械は、高操業を続けていた半導体集積回路は国内工場再編を控えた伸び悩みがあり、一部磁気ディスク装置は海外生産シフトと工場再編を控えた生産調整が行われており、減少が続いている。化学は、医薬品の高い需要により、高い水準で推移している。紙・パルプは、おおむね横ばいであるが、パソコン関連向けのマニュアル、印刷用紙の需要の低迷が懸念されている。一般機械では、玉軸受け国内外需要の低迷などから抑制的な生産が続いている。繊維工業も依然として低い水準にある。



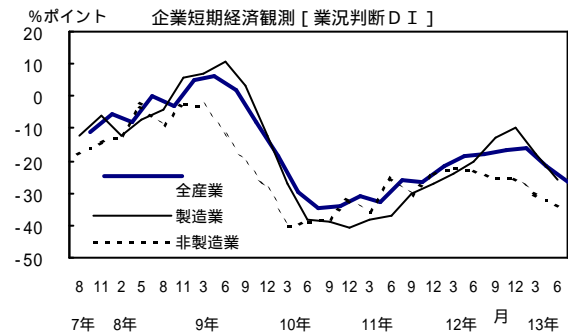
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連 (現状判断理由)]

受注量が少ない (電気機械器具製造業)、IT関連以外は厳しい (広告代理店) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、例年以上に荷動きが悪い (家具製造業) などの理由から「悪くなっている」という回答もみられた。



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。6月は予測。

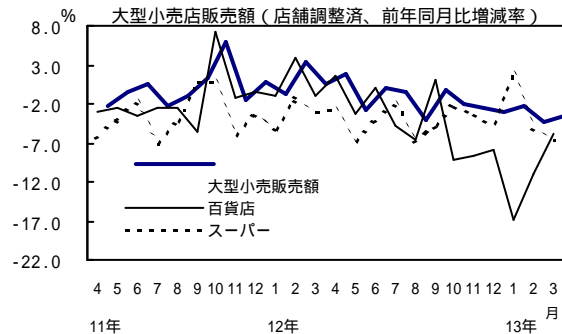
2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

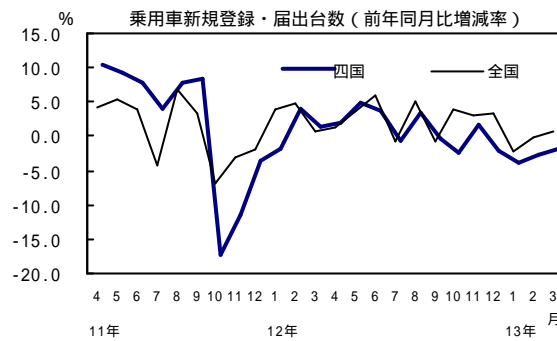
1 大型小売店販売額

百貨店は、冬物衣料品処分セールが低調であったほか、3月初旬の冷え込みから春物衣料品の動きが鈍かった。

スーパーは、年明けの好調は長く続かず、主力の飲食料品が低調で、春先の冷え込みから春物衣料品の動きも鈍く、低迷を続けている。家電では、家電リサイクル法関連商品に動きはみられたもののマイナス要因が大きく、前年割れとなった。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

来客数が減少している（百貨店、コンビニ、美容室） 売上が減少している（スーパー、家電量販店、旅行代理店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している（百貨店、スーパー、衣料品専門店）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	43.2	40.5	36.7	38.9	41.4	39.8
先行き判断	45.1	45.2	45.5	46.4	41.5	48.1

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

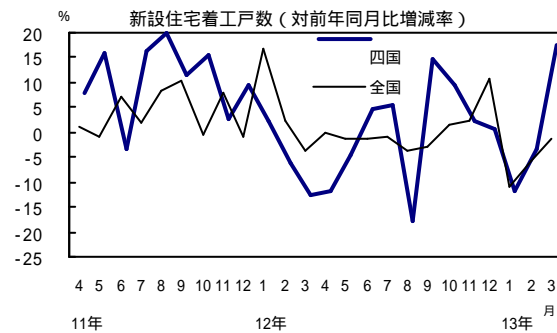
（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]（前年度比増減率、単位：％）

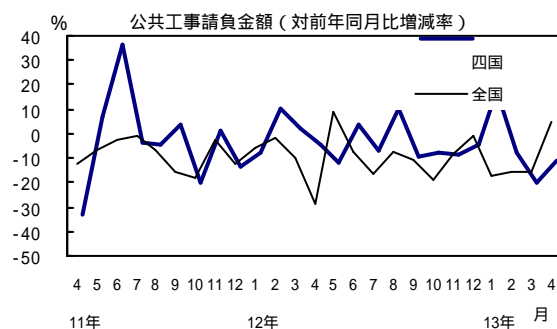
	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	6.8	6.4
製造業	2.1	10.4
非製造業	9.2	15.8

（3）住宅建設は減少している。

貸家、分譲の増加により3月は増加となったものの、全体としては減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

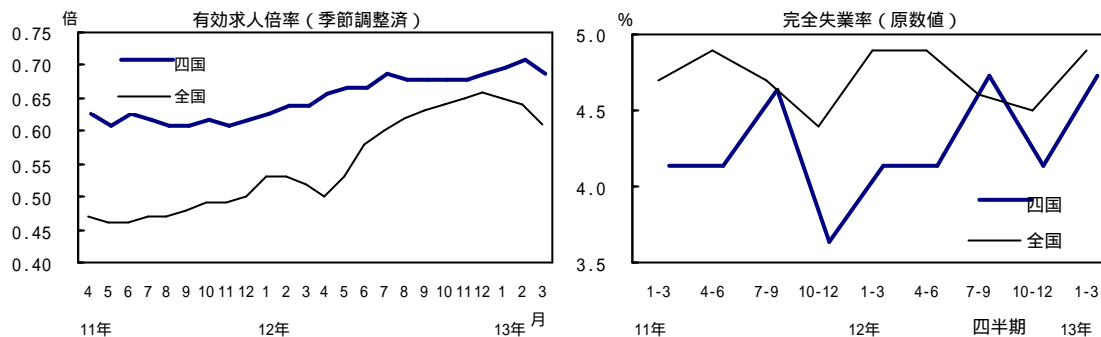


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇していたが、3月に低下に転じている。完全失業率は、前年同期を上回っている。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

増加傾向にあった求人数がほとんど変わらなくなっている (職業安定所) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、マイライン関連の特需も一段落している (人材派遣会社) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答も多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位: %)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	19.5	14.8	11.8	12.0	20.0	2.2	14.6
負債総額	27.6	438.5	167.9	317.9	170.0	62.8	40.2

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	43.4	40.8	38.0	39.4	39.9	38.2
先行き判断	45.8	44.3	46.1	46.2	42.0	46.2

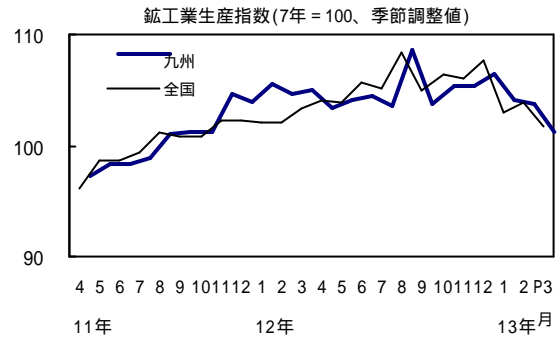
(9)九州

九州地域では、景気は弱含んでいる。これは、鉱工業生産は減少し、設備投資の先行きについても減少が見込まれており、個人消費はおおむね横ばいの状態であり、雇用情勢も厳しい状況となっているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

電気機械のIC生産は、パソコン関係の落ち込みや、携帯関係の需要が予想以上に伸び悩んでおり、数量、金額ともに減少傾向にあり、窯業・土石のファインセラミックスなども連動する形で減少している。鉄鋼は国内経済の減速や海外市況の低迷により大幅減産を余儀なくされている。自動車は新型車が好調で、北米向け輸出も好調であり、増加している。



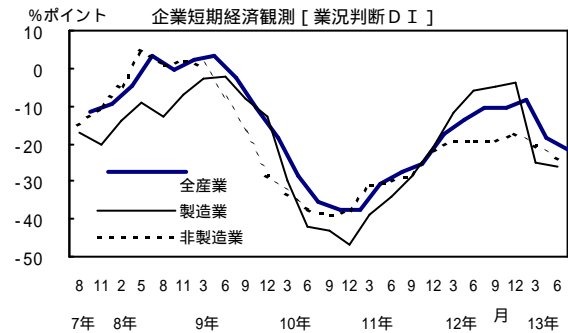
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大している。

1 企業短期経済観測調査 [業況判断D I]

2 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連(現状判断理由)]

出庫が少なく、入庫が多い(輸送業)、空室率が高くなっている(不動産業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、受注が回復していない(機械器具製造業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測

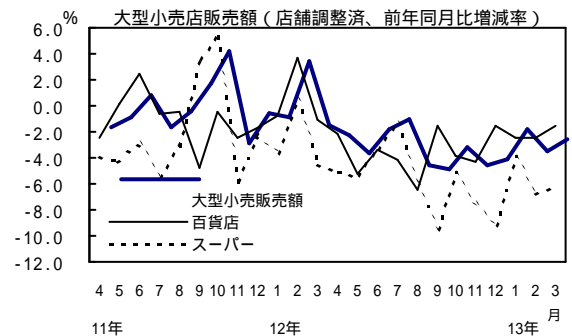
2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

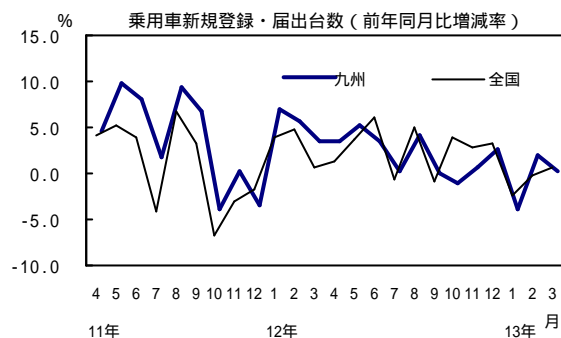
1 大型小売店販売額

百貨店は、身の回り品は動いているが、紳士服、その他の衣料品の動きは鈍いという状況が続いている。また、土日に雨が降るなど天候不順が続き、客足の減少もみられた。

スーパーでは、家具、家電、家庭用品の動きが鈍く、家電リサイクル法施行前の需要は家電量販店に流れたこともあって低調であった。また、消費マインドの冷え込みや低価格志向が依然強く、飲食料品は和洋菓子などが動いたものの、全体としては前年を下回った。



2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

客単価が低下している（百貨店、コンビニ、通信会社等）客の購買意欲が低い（百貨店、スーパー、その他専門店 [ガソリンスタンド]）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している（スーパー、住関連専門店、パチンコ店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	40.3	44.3	40.4	39.5	42.2	42.9
先行き判断	45.8	42.9	42.6	45.5	41.5	51.0

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]
製造業は半導体増強投資の抑制や、新型車モデルチェンジ対応投資の完了などにより減少している。非製造業は新規出店の反動などで減少している。全産業で2年ぶりに減少に転じる見通しである。

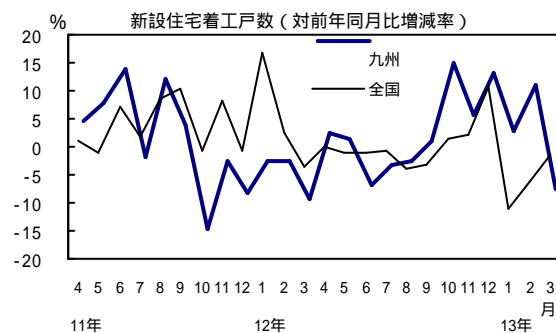
（前年度比増減率、単位：%）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	9.9 (0.8)	9.7
製造業	16.5 (1.2)	6.4
非製造業	7.0 (0.7)	11.2

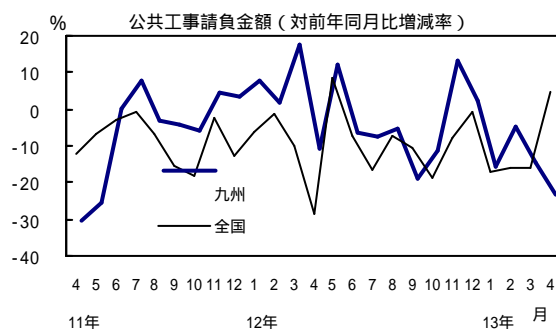
（備考）()は前回（12月）調査比修正率。

（3）住宅建設は緩やかに減少している。

貸家、分譲住宅は増加しているものの、持家が減少しており、基調としては緩やかに減少している。



（4）公共投資は前年を下回っている。

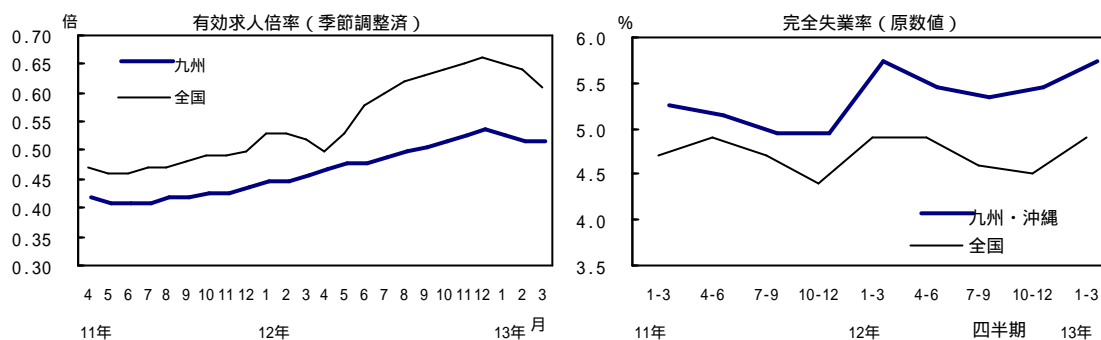


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

1 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は悪化しており、完全失業率は前年同期と同じであり依然として高い水準にある。



2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]

再就職支援の依頼が横ばいである (人材派遣会社) 事業主都合による退職が増加している (職業安定所) などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、求人広告が少なくなっている (新聞社 [求人広告]) などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額が増加している。

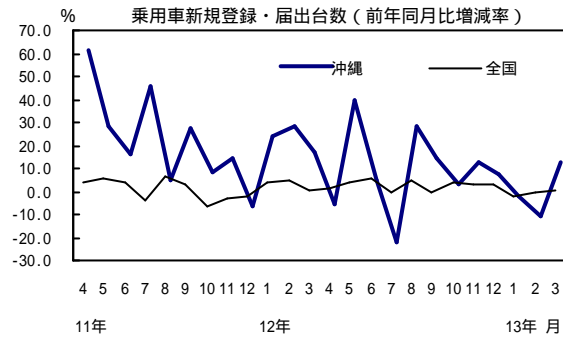
(前年同期(月)比増減率、単位: %)

	12年4-6月	7-9	10-12	13年1-3月	13年2月	3	4
倒産件数	31.3	13.7	8.7	11.7	19.5	9.3	20.0
負債総額	267.8	109.0	46.2	390.1	753.9	123.3	12.3

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	43.7	45.2	40.9	40.2	40.5	42.1
先行き判断	47.3	44.9	44.9	44.5	41.4	49.3

2 乗用車新規登録・届出台数



3 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I（現状判断理由）]

客単価が低下している（スーパー、コンビニ）、売上に変化がない（高級レストラン）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数が減少している（百貨店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答や、売上が減少している（都市型ホテル）などの理由から「悪くなっている」とする回答もみられた。

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	50.0	41.7	35.0	35.0	44.2	36.4
先行き判断	43.3	50.0	48.3	48.3	42.3	45.5

（備考）巻末主要指標（9）の備考を参照のこと。

（2）設備投資の13年度計画は前年度実績見込みを下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]
食料品で前年度の工場移転投資の反動や、大型小売店の新規出店や増床等が一段落するため、前年度を大幅に下回る計画となっている。

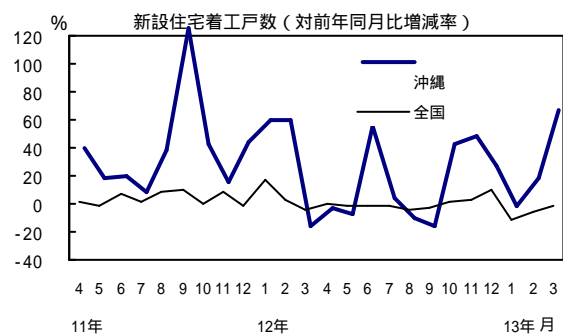
（前年度比増減率、単位：%）

	12年度実績見込み	13年度計画
全産業	7.0 (7.6)	16.6
製造業	7.9 (10.7)	27.9
非製造業	6.8 (6.9)	14.3

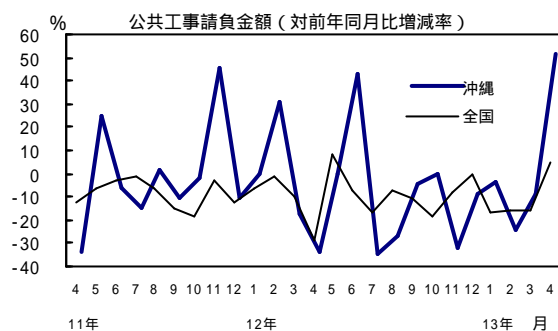
（備考）石油、電力を除く。（ ）は前回（12月）調査比修正率。

（3）住宅建設は増加傾向で推移している。

貸家は安定して推移している。

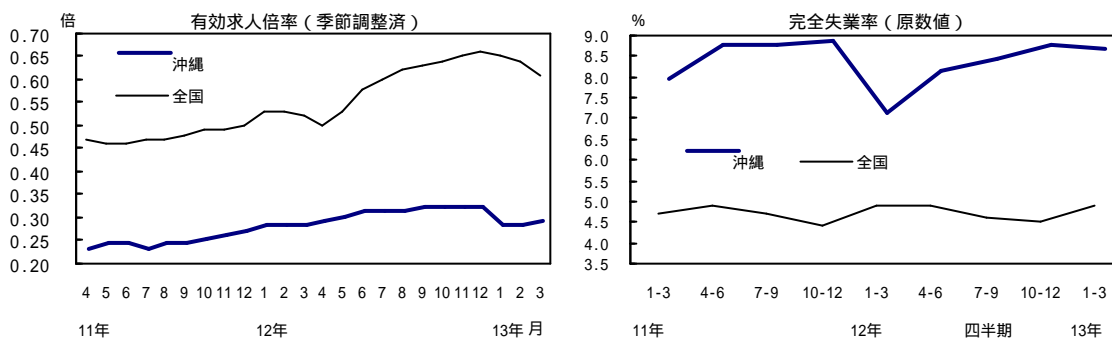


- (4) 公共投資は前年を下回っている。
4月は前年を上回ったものの、全体の基調は変わらない。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。
1 有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は、1月に低下に転じその後緩やかに上昇しているが、完全失業率は、前年同期を大幅に上回っている。



- 2 景気ウォッチャー調査 [雇用関連 (現状判断理由)]
求人の状況に変化がない (学校 [専門学校])、失業保険受給者が増加している (職業安定所) などの理由から「変わらない」とする回答がみられた。

- (2) 企業倒産は負債総額が減少している。 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年4~6月	7~9	10~12	13年1~3月	13年2月	3	4
倒産件数	157.1	95.0	0.0	0.0	28.6	14.3	20.0
負債総額	68.4	71.2	57.7	30.4	92.5	84.0	96.0

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年11月	12	13年1月	2	3	4
現状判断	50.0	44.0	38.1	36.4	40.8	40.6
先行き判断	47.6	53.6	47.6	50.0	44.7	50.0

地域経済動向における各地域の景況の推移

	11年12月	12年 2月	4月	8月	11月	13年 2月	5月
北海道	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態	足踏み状態	弱まっている
東北	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	弱含んでいる
関東	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる
(北関東)	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる
(南関東)	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる
東海	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	足踏み状態
北陸	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	弱含んでいる
近畿	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる
中国	改善が続いている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善が続いている	改善のテンポが緩やかになっている	弱含んでいる
四国	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態	弱まっている
九州	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	弱含んでいる
沖縄	回復傾向にある	回復傾向にある	回復している	回復している	回復している	回復している	緩やかな改善が続いている

(備考) は上方修正。

 は下方修正。